

CL季刊誌講読所感

C. S.



●CLニュース 季刊誌 100号記念

23年～20年前に、共に地元の学習会で学んだ懐かしいお名前が並んでいました。地方の陸の孤島と呼ばれる程の片隅で、CLの学習会が開かれていたのは奇跡ですね。亡くなられた方がおひとり、10年以上お目にかかることも無い方が三人。どこかですれ違っても分からないですね～。残念ながら。

寄稿はされていないけれども、学習会で知り合った方々、インストラクターになった方、なれなかった方、学習会で知り合い結婚された方々。皆さんとても爽やかな印象でした。

常連さんも、一見さんも五十音順に並び『こういうのを無差別平等と言うのでは』と思いました。

「物代表」「皆様のご両親、ご先祖、電気、水道、自然界の恵み、健康を維持できる太陽、空気」等も列挙されていて、物に感謝するのはCLらしいですね。

私もペン、紙、テーブル、タブレット、椅子などなどに支援されて今、書かせて頂いているところです。

100号まで続けて生み出して下さり、ありがとうございます。

・CLからの提言-パンデミックのいい面

「いい影響も少なからずあります。読者も考えてみて下さい」

はい。考えてみました。

1994年制定の「地域保健法」により、全国の保健所が半減にされたそうです。

2014年に成立した「地域医療介護総合確保推進法」により公立病院の再編統合が進み、2025年に16万病床を減らす計画もあるそうです。

病院は、警察や消防と同じく、利益を求めることなく、赤字に関係なく存続が必要なはずですが。コロナによる医療崩壊がおこるとしたら、保健所と公立病院を減らしたためでは？政治の失敗では？

ワクチンの職域接種も大企業で締め切られ、中小企業には行き渡らない様子で不公平感が残ります。

現在のグローバル主義、新自由主義は、海外の極わずかな大富豪のところに更に世界中からお金が集められる仕組み。福祉はドンドン削られるばかりです。パンデミックはその仕組みに気付くきっかけになりますようにと期待しております。

・日めくりCLポイント365日(十六)

「不完全で大した人間でもないのに、私たちは支援されています」

10歳のときから病気の私は、8時間労働の仕事に就けたのは、わずか2年3ヶ月のみ。大した人間でもないのに64歳まで、障害年金と社会保障で生かされております。皆様が働いて納税して下さい下さるお陰です。ご支援のお陰です。

キッチンと生きなければと身が引き締まります。せめて知らない人達にも笑顔で「ありがとうございます」とお伝えし続けなくては。

「人生は神秘的で、謎で、不思議だと耳にしたいですか。まあ、人生はそうでもあり、そうではありません」

「事実は小説より奇なり」という諺は真実と思います。若い頃は『ドラマだからこんな展開になる。こんなこと起こる筈がない』と観ていましたが、60歳を過ぎてからは『ドラマや小説のようなことが、バンバン起こるのが現実』と認識しております。「どうしてこうなるの?」「こういうことが起こる確率はかなり低いはず。なのに続く」現実のストーリー展開のほうがジェットコースターのように速く迫力があります。


ですが、私の人生の大部分は、箸と塵取りを持つ、お茶碗を洗う、大根を切る、冷蔵庫から牛乳パックを取り出す、通帳の残高とにらめっこする、そういう変わらないことに繰り返し時間の大部分を取られています。

・若い人たちへの建設的なアドレス「2」

自分自身に「できない」と言い訳していることに気付かされました。机上の空論のように家事や雑用の段取りを、頭の中だけで考えて実行してみても、不便さ、面倒臭さにイライラしていました。

うっかりミスで、仕方なく別のやり方をすると「アラ、簡単便利」なこと。これは良くないと頭の中だけで決め付けて行わないのは勿体ない。とにかく、試しにイロイロやってみる、行動することが大事と気付いたこの頃です。

「できません」ではなく、能力、感情、経済が理由と詳しく語れば物事は好転するかも、しないかも。結果はコントロールできないけど、好転するように努力している時がしあわせ。(岩手県大船渡市)

 [目次へ戻る](#)